

あなたは…
ええ、お久しぶりですね

お変わりない
ようでなによりです

こちらの方…ですか？

シ、シノブちゃん
やっぱり僕が持つよ

これくらい
問題ありません
あなたは
心配し過ぎです

そう、ですね…
現在懇意にさせて
いただいている
依頼主…とでもいいいますか…

いえ、手伝いは
必要ありません

でも大事な身体
なんだから……

はあ…
申し訳ありません
急ぎの用がありまして
これで失礼させて
いただきます

どうかお元気で…

ぐ、ぐふふ…
帰ってきて早々
男に跨るなんて…

シノブちゃんは
淫乱だねえw

あ

あ

それでも
我慢…んっ…
したのですが…

ぬち

ぬち

買い物…
しているときも…
あの人と…
話しているときも…

おじさまのチンポの
ことばかり…はあ…
考えて、いました…

申し訳、んっ…
ありません…

は

ん

ぐふふ…
いいんだよ
シノブちゃん

僕は淫乱な
シノブちゃんが
大好きだからねえ

はい…♡
ありがとう、んあつ♡
ごさい、ます…♡

はあ♡

はあ♡

私がこの方と
このような関係になったのは
今から半年ほど前のことでした

んん



んん

んん

んん

私に取りついた大淫婦の霊は、
ある日突然私を解放しました。

しかし身体の自由を
取り戻しても、私の身体は
すでに手遅れでした。

日常的に火照る身体。
断続的に襲い続ける
耐えがたいほどの
お腹の奥の疼き。

淫婦と共に淫蕩な日々を送った
私の身体はすでにそれなしでは
いられないほどに快楽で
焼きつくされてしまっていました。

一人では収めようのない
身体の熱を鎮めるため男性と交わり、
それが呼び水となりまた身体は快楽を求め…。
日かな男を漁る退廃的な日々の中で
出会ったのがこのおじさまでした。



運命的……とでも
いいましょうか。

身体の内に彼の
男性器を迎え入れた瞬間、
全身を甘い痺れが
電流のように駆け巡りました。

たった一度の性行為で
私の身体ははつきりと
理解してしまいました。

今交わっている
このオスこそが私にとって
この世に二人としない
最高の相手なのだ、と。

そして波のように
押し寄せ続ける
快感……快感……快感……。

それ以来、私はこのおじさまと
毎日のように
交じり合う関係となりました。

そして――



お腹、だいぶ
大きくなつて
きたねえ

もう五か月
くらいかな？

はい…♡

おじさまと
出会ってからに
なるので…んっ
それくらいかと…

ぐふふ
惜しいねえ

あと一月早ければ
あのがキに見せつけてやれた
かもしれないのにねえ

シノブちゃんがママに
なったってこと♡

……

♡♡♡あ…♡

あ…♡

あ…♡

♡♡♡あ…♡

♡♡♡んっ♡

あ…♡

あの…おじさま…
そろそろ…
挿入れても…
よろしいでしょうか…?

私…もう…んくっ
我慢の限界、で…っ♡

ん？
ああごめんごめん

焦らし
過ぎちゃった
かな？

いいよお
シノブちゃん

シノブちゃんの
大好物のチンポ
存分に召し上がれ♡

は、ああ…っ♡
ありがとう…
ごさいます♡

それでは
失礼、しますね…んっ♡

ぬらぬら♡

ぬら♡

はあ♡

はあ♡

んくっ♡

んくっ♡





はあ...はあ...
入り、ました...
おじさまあ...♡

本当に何度入れても...
このおちんぼ...私に
ぴったりで...♡

もうこれが入ってないと
落ち着かないくらい...♡

それじゃあ
そのまま自分で
動こうね

妊婦さんも適度に
運動しなきゃだからねえ

よしよし
偉いよお
シノブちゃん

はい...んっ♡

ぬっ♡

ぬっ♡

あ♡

は♡

ズ♡

ズ♡

ズ♡

ん♡

ズ♡

んっ…んっ…
あっ♡ はあっ♡
ああっ♡

僕のチンポ
キモチイイかい
シノブちゃん？

はいっ…♡
おじさまの、ちんぽっ♡
どう動いても、私の弱いトコ
ばかりあたってえ♡

未練…
なのでしょね…

おじさまにあの人に
触れてほしくないと
思ってしまうのは…

複数の男性と関係を持ち、
あまつさえおじさまの子まで
孕んでおきながら…

私は…まだ
あの人のことを…

きもち、いいっ♡
きもちいいですっ♡
おじさまあっ♡

すみません
おじさま...

胸から……
母乳、が……

ぐふふ
気にしないで
いいんだよ
シノブちゃん

僕はシノブちゃんの
身体がママになっていくのを
見るのが好きだからねえ

僕の赤ちゃんを孕んだシノブちゃんが
僕の赤ちゃんを育てるための
母乳を出していると思うと……っ
ぐふ、ぐふふっ!!
たまらなく興奮しちゃうよっ!!

そう……
私はもうかつての
私ではありません

お父さんを
助けることもできず
霊媒師としての使命も
果たせず……

日かな男性との情交に耽り
快楽を貪る淫らで浅ましい女……

淫婦の霊……
彼女はきつときっかけに
過ぎないので

彼女が私にあっさり取りつけたのも
きつと元から私の身体が彼女に
近しい性分を持っていたから……

きつと彼女が
いなくても
いずれ私は……



お願い、しますっ
おじさま…っ♡

ん？

精液…っ♡
おじさまの精液…っ♡
ください…っ♡

私のこと…
もっと気持ちよくして…っ
めちやくちやにして
欲しいんですっ♡

もうおじさま以外
全部…っ、
全部どうでも
よくなるくらい…っ♡

私を完全に…っ
おじさまのモノに
してください…っ♡

……

…ぐふふ
いいよお
シノブちゃん
もうほとんど
僕のもの
だったけど

シノブちゃんを
ママにした精液
たくさん
注いであげて……

はいっ……♡
ありがとうございますっ♡
おじさまあっ♡

今日でシノブちゃんのこと
完全に僕のお嫁さんにして
あげるからね♡

ああっ、イクっ♡
イきますおじさまっ♡
んああっ♡♡♡
イ……っくうううううっ♡♡♡



は、ああ……
おじ、さまの……^{ザーメン}精液……
どくん、どくんって……
私の、なかにい……

濃くて、熱くて……

んっ、あああ……
すごい、です……う

子宮に彼の熱い精液が
ぶつかる度にゆっくりと
身体も思考も溶けていく
かのよう……

漠然と抱いていた
罪悪感も……
あの人への想いも……
遠く色褪せていく……

身体だけじゃなくて……
魂までも、この人に
囚われていく……
ああ、私はもう――

今繋がっているオスが……
私を母にしたチンポが……
愛おしくて
たまらなくなつて……



満足したかい
シノブちゃん？

はあ...はあ...

あ...

あの男のことは
忘れられそうかい？

あ...

.....

ん...

ん...

ん...

ん...

ん...

ん...

ん...





ぷはっ
お、おお…?

これは…?

はい…♡
この下着と一緒に
買ってきた
精力剤…です♡

もういいんです
あの人のことは…♡

私はもう、
おじさまのモノになると
決めましたから…♡

ぐふ…ぐふふっ!!
最高っ!! 最高だよ
シノブちゃん!!

今日は一晩中
二人で…いや、三人で
愛し合おうねえっ♡

はい…♡
この子と一緒に…んっ♡
私のことたくさん
愛してくださいね
私の旦那様…♡

その記念に
今日は一晩中…♡

ズン♡

ズン♡

ズン♡

キス♡

キス♡

はっ♡

はっ♡

これまで得てきた
価値観…責務…
すべてを投げ捨て
ただ一匹の雌として
快楽を貪る……。

その解放感たるや……

墮落と諦観に身を沈め、
この日も私は一晩中
幸福な快楽に溺れました。

ああ……
なんて……
心地、いい……♡

その中でかつての
愛しい人々を思い出すことは
もう、ありませんでした……。

HAPPY END♡































